

VODOROQU

市 井 外喜子

On the Word “VODOROQU”

Ichii Tokiko

- 1 題目 VODOROQU
- 2 氏名 市井外喜子
- 3 英文題目 On the Word “VODOROQU”
- 4 ローマ字氏名 Ichii Tokiko
- 5 要旨 『日葡辞書』(1603・04) には、Vodoroqu ①びっくりする。②眠りから目ざめるの二義が見られる。②の生理的覚醒を担う語義の退潮までを吟味したものである。
- 6 目次 1 Vodoroqu
2 ODOROKU (1)
ODOROKU (2)

Vodoroqi, qu, oita びっくりする。また、眠りから目ざめる。

『日葡辞書』(邦訳日葡辞書 土井忠生・森田武・長南実編訳 岩波書店) には、上記の Vodoroqu がみられる。2 義みられる Vodoroqu であるが、今回は②眠りから目ざめる に注目したい。最初に天草版平家・古典平家(国会本・高野本・龍大本)によって確認を行なう。使用した『平家物語』は、次のものである。

- 天草版平家 『天草版平家物語対照本文及び総索引』江口正弘著 明治書院
- 国会本 新潮日本古典集成『平家物語』国立国会図書館蔵百二十句本 新潮社
- 高野本 新日本古典文学大系『平家物語』東京大学国語研究室蔵本 岩波書店
- 龍大本 日本古典文学大系 『平家物語』龍谷大学図書館本 岩波書店

さらに方言辞典・言語地図をも援用し、Vodoroqu 周辺部の報告を記したい。使用した方言辞典・言語地図は、次のものである。

- 『日本方言大辞典』徳川宗賢監修 小学館
- 『現代日本語方言大辞典』平山輝男編集代表 明治書院

- 『全国方言辞典』東条操編 東京堂出版
- 『日本語方言辞書－昭和・平成の生活語－』 藤原与一著 東京堂出版
- 『日本言語地図』国立国語研究所 大蔵省印刷局

1 Vodoroqu

天草版平家物語本文には、20例の Vodoroqu がみられる。また目録には1例（巻第二、第十平家の兵鳥の羽音に vodorote, 敗軍して面目を失うたこと。）みることができる。

目録の Vodoroqu が、日葡辞書の①びっくりするの語義であることは明白である。天草版平家物語本文に出現する20例の Vodoroqu の中で、②眠りから目ざめるの語義を有するものは、2例のみである。18例は、目録にみられたように①びっくりするである。

②眠りから目ざめる語義を有する2例の Vodoroqu をみることにする。記す順序は、天草版平家・国会本・高野本・龍大本とする。

1 天草版：巻第四第二十 大臣殿を子副将に対面あること：同じく副将を害すること（Vodoroqu が出現するのは、義経から河越小太郎が、副将の処分を命ぜられて、六条河原に誘い出すために、二人の女房に寝ている副将を起させ、迎いの車に乗せようとする場面においてである。）

（略）を車寄せて疾う疾うと申せば、女房どもげにもと心得て、寝入らせられた若君ををしをどろかし奉り、いざをひんなされい、を迎いに車が参ったと、申せば、若君 vodorocaxerarete、きのうのやうに大臣殿のを方にまたござるかと喜ばせられたわいたわしいことぢや。

◦国会本：巻第十一第110句 副将

（略）御車寄せて、とくとく」と申せば、女房ども「まことぞ」と心得て、寝入り給へる若君をおしおどろかしたてまつり、「いざ、させ給へ。御迎ひに車の候」と申せば、若君おどろかされて、「昨日の様に大臣殿の御方へ、また参らんずるか」とよろこび給うぞいとほしき。

◦高野本：巻第十一 副将被斬

（略）御車よせたりければ、わか公なに心もなう乗り給ひぬ。「又昨日のやうに、ちゝ御前の御もとへか」とて、よろこばれけるこそはかなけれ。

◦龍大本：巻第十一 副将被斬

（略）とうとうめされ候へ」とて、御車よせたりければ、わか公なに心もなうのり給ひぬ。「又昨日のやうに父御前の御もとへか」とてよろこばれけるこそはかなけれ。

天草版と国会本は同一場面を持つが、高野本・龍大本には、二人の女房が寝ている副将を起し、迎いの車に乗せる場面が欠けている。したがって高野本・龍大本には Vodoroqu＝目覚める語義が出現しない。このことは天草版平家の依拠本を探る一つの手がかりにもなりうるところである。

2 天草版：巻第四第十 通盛の北の方，小宰相の局通盛に後れ，身を投げられたこと。

楯取が一人寝なんだがこれを見て，あらあさましや！女房の海え入らせられたぞやと，申せば：その時乳母の女房この声に *vodoroite*，そばを探れども，手にもさわらず，人もなし：

○国会本：巻第九第90句 小宰相身投ぐる事

楯取が一人寝ざりけるが，これを見て，「あな，あさましや。女房の海へ入らせ給ひぬるぞや」と申しければ，そのとき乳母の女房，この声におどろき，側をまさぐれども，手にもさわらず，人もなし。

○高野本：巻第九 小宰相身投

かんどりの一人ねざりけるがみつけ奉て，「あれはいかに，あのお舟より，よにうつくしうまします女房の，たゞいま海へ入らせたまひぬるぞや」とよばゝりければ，めのとの女房打おどろきそばをさぐれどもおはせざりければ，「あれよ，あれ」とぞあきれける。

○龍大本：巻第九 小宰相身投

かんどりの一人ねざりけるがみつけ奉て，「あれはいかに，あのお舟より，よにうつくしうましますねうばうの，たゞいま海へいらせたまひぬるぞや」とよばゝりければ，めのとのねうばう打おどろき，そばをさぐれどもおはせざりければ，「あれよあれ」とぞあきれける。

この天草版平家巻第四第十にみられる *Vodoroqu* は，古典平家（国会本・高野本・龍大本）においてもみられるところである。なお「おどろく」については，国会本では傍注＝口語訳（はつと目覚めて）が，高野本では脚注（はつと目をさまし，「驚く」は，目をさますこと。）があり，龍大本においても頭注（はつと目を覚まし）がある。このように注記を必要とする「おどろく」から，①びっくりするに対して，②眠りから目ざめる語義が一般的な使用状況にはないことが予想される。

因に『日本国語大辞典』小学館にみられる「おどろく」を示しておく。

①意外なことにあつて，心が動く。心の平静を失う。びっくりする。

○書紀（720）神代上（水戸本訓）「天照大神，驚動（ヲトロキ）たまひて，梭をもて身を傷ましむ」

○新撰字鏡（898－901頃）「愕然 驚愕也 於豆又於比由 又於止呂久」

○源氏（1001－14頃）桐壺「相人おどろきてあまたたびかたぶきあやしむ」

○平家（13C前）七・実盛「水鳥の羽音におどろいて，矢ひとつだにも射ずして」

○観智院本名義抄（1241）「愕 オトロク オビユ」

③眠りからさめる。目ざめる。

○書紀（720）垂仁五年一〇月（熱田本訓）「時に天皇，皇后の膝に枕して昼寝したまふ。（略）天皇則ち寤（オトロキ）て，皇后に語りて曰はく」

○万葉（8C後）四・七四一「夢の逢は苦しかりけり覚（おどろき）てかき探れども手にも触れねば（大伴家持）」

○源氏（1001－14頃）夕顔「物におそはるる心ちしておどろき給へれば火もきえにけり」

- ・太平記（14C後）一・頼員回忠事「前後も不知臥たりけるが、時の声に驚（ヲドロヒ）て」
- ・筑紫方言（1830頃）「目のさめたと云事をおぞんだ、又おどろいたとも」

なお語誌には、上代から生理的覚醒（目覚める）と心理的覚醒（びっくりする）とを意味したが、平安中期以降次第に「目覚める」意は用いられなくなった。とある。前述の②眠りから目ざめる 意の用例に、注記が添えられるのは、このような語義の環境を考慮してのことである。

文学作品の中で次第に用いられなくなった「おどろく＝眠りから目ざめる」を、言語地図および方言辞典から吟味を行なうことにする。

2 ODOROKU (1)

『日本言語地図』（全6集 300面 国立国語研究所）第2集には、ODOROKUに関連する3面の言語地図がある。77図びっくりする（驚く）、78図オドロクを“驚く”の意味で使うか、79図オドロクを“目覚める”の意味で使うか、の3面である。

この言語地図は、次のような場面を限定して得られた情報によるものである。

77図びっくりする（驚く）

質問文 急にうしろから大きな声をかけられてドキンとすることを、どうすると言いますか。

78図オドロクを“驚く”の意味で使うか

質問文 急にわっと大きな声をかけられて「おどろいた」というふうに、びっくりする、たまげるという意味で使いますか。

79図オドロクを“目覚める”の意味で使うか

質問文 「おどろく」ということばを、目が覚めるという意味に使いますか。夜どんなに遅くまで起きていても、朝五時半には必ず「おどろく」というふうに。

77図は「なぞなぞ式質問」により、78図・79図は「誘導式質問」によったものである。質問形式の違いが ODOROKU の分布模様 zu 当然あらわれ、そのくいちがいが ODOROKU の分析に有効に働いてくる。

以下に示す79図オドロクを“目覚める”の意味で使うか の分析結果は、「ODOROKU と相関係数」（77・78・79図の分析を相関係数を用いて行なった結果を報告：『日本文学研究』第22号、1983年）中の、79図の分析結果を簡潔に記すものとする。

79図は、“目覚める”意味で ODOROKU を使うか・使わないかと誘導式質問によって尋ねたものである。

文献によって、古くから日本の中央において“目覚める”意味を持つ「おどろく」が用いられていたことをみてきた。

さて79図をみると、〈使う〉、すなわち ODOROKU が古くから持っている“目覚める”意味を、地図上において示す地域は極めて少ないことに気付く。47都道府県において〈使う〉がまったく

見られないのが25県にも及ぶのが注目される。東西の区分でみれば、東日本の諸県にこの傾向が著しいようである。(表1を参照)

表1

79 オドロクを“目覚める”の意味で使うか	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	山梨	長野	静岡	愛知	岐阜	富山	石川	福井	三重
使う	1	24	57						1			1				4			1					1
使わない	68	50	34	46	57	42	63	37	29	32	25	36	25	16	65	22	74	43	33	60	21	28	24	51

79 オドロクを“目覚める”の意味で使うか	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
使う	1	1			3	17		7		34	29	31	12	35	48	5		4		47			
使わない	26	25	14	48	20	25	22	50	57	33	30	1	10	15	4	39	13	38	36	6	55	69	60

このような中であって〈使わない〉よりも、〈使う〉比率の方が高い県が7県あり、注目される。7県の使用比率を表2として示す。

表2

(%)	岩手	広島	徳島	香川	愛媛	高知	大分
使う	63	51	97	55	70	92	89
使わない	37	49	3	45	30	8	11

この7県は、〈使う〉比率が50%を越えるものであり、中でも四国ブロックの〈使う〉が目立つ。なおブロック別による相関係数により、各ブロックの様子を示すと、表3のようになる。

表3

79図	北海道	東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
北海道		1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	-1.000	1.000	1.000
東北			1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	-1.000	1.000	1.000
関東				1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	-1.000	1.000	1.000
甲信越					1.000	1.000	1.000	1.000	-1.000	1.000	1.000
東海						1.000	1.000	1.000	-1.000	1.000	1.000
北陸							1.000	1.000	-1.000	1.000	1.000
近畿								1.000	-1.000	1.000	1.000
中国									-1.000	1.000	1.000
四国										-1.000	-1.000
九州											1.000
沖縄											

四国ブロックのみが他のすべてのブロック間に負の相関係数を持ち、ODOROKU＝目覚めるブロックとして極だっている。

更に四国4県が、各県との間で持つ相関係数を示すと、表4のようになる。

表4

79図	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	山梨	長野	静岡	愛知	岐阜	富山	石川	福井	三重
徳島	-1	-1	1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1
香川	-1	-1	1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1
愛媛	-1	-1	1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1
高知	-1	-1	1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1
	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	
徳島	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	1	-1		1	1	1	-1	-1	-1	-1	1	-1	-1	-1	
香川	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	1	-1	1		1	1	-1	-1	-1	-1	1	-1	-1	-1	
愛媛	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	1	-1	1	1		1	-1	-1	-1	-1	1	-1	-1	-1	
高知	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	-1	1	-1	1	1	1		-1	-1	-1	-1	1	-1	-1	-1	

表4からは、前述の〈使う〉比率の高い7県が、4県との間に+1の相関を持つ様子を見ることが出来る。したがって岩手・広島・徳島・香川・愛媛・高知および大分の7県は、他の40県とは-1の相関を示すことになり、ODOROKUを“目覚める”意味で〈使う〉という大きな特徴を示している。

四国4県を代表としてとりあげ、“目覚める”意味のODOROKUが今後どのような使用状況を示すようになるかを、表5から予測してみたい。

表5

	(%)	徳島	香川	愛媛	高知
79 ODOROKU＝目覚める		97	55	70	92
78 ODOROKU＝驚く		80	14	47	78
77 ODOROKU 類				15	
BIKKURI SURU 類		41	80	15	54
TAMAGERU 類				70	33
OBOKERU 類		59	20		

表5から得られる観察結果を、箇条的に記しておく。

1. 4県ともに“目覚める”意味のODOROKUが、50%を越える使用率を持つ。

2. 4 県ともに ODOROKU=目覚めるの使用率が、ODOROKU=驚くよりも高い。
3. ODOROKU=驚く使用率のより高い県は、ODOROKU=目覚める使用率も、より高い。(殊に徳島・高知の 2 県)
4. 77 図なぞなぞ式の質問結果では、ODOROKU 類が見られるのは愛媛県 1 県のみ、15%の使用率にすぎない。
5. 77 図では、4 県ともに全国共通語形の BIKKURI SURU 類が、見られる。(また TAMAGERU 類は愛媛・高知に、OBOKERU 類は徳島・香川に見られる。)
6. 四国 4 県には ODOROKU=目覚めるが先住しているために、同音異義の衝突を避ける心理が働き、“驚く”意味の ODOROKU の進入は困難であろう。(他の語形を取る。)
7. したがって“目覚める”意味の ODOROKU は、四国ブロックにおいて暫くの間安定状態を保つのではないだろうか。

上記の観察結果は、四国ブロックを核としたものである。ここで 77・78・79 の 3 図の ODOROKU を重ねあわせ、47 都道府県から得られる結果を簡条的にまとめておく。(表 6)

表 6

(%)	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	山梨	長野	静岡	愛知	岐阜	富山	石川	福井	三重
77 ODOROKU 類	13	2					3	3	14	3	9	6	6	10	5		54	26	34					
78 ODOROKU=驚く	98	39	13	57	77	21	26	39	75	87	92	92	100	100	41	81	61	80	62	75	67	56	93	92
79 ODOROKU=目覚める	1	32	63							3			4				5			2				2
(%)	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	
77 ODOROKU 類														15								10	80	
78 ODOROKU=驚く	100	82	89	71	75	44	100	73	41	62	100	80	14	47	78	36	50	100	25	16	50	51	71	
79 ODOROKU=目覚める	4	4			13	40		12		51	49	97	55	70	92	11		10		89				

1. 77 図で回答された ODOROKU 類、78 図の ODOROKU=驚くには、なぞなぞ式質問と誘導式質問の質問形式の違いによる差がはっきりとあらわれている。したがって 77 図では積極的な分布領域および使用量を持ち得なかった ODOROKU 類ではあるが、78 図と重ねてみると、ODOROKU は“驚く”意味で、今後も拡がりを保ち続けることが予測できる。

(77 図では ODOROKU 類の使用の多寡を問わなければ、17 県にみられるが、北陸・近畿・中国の 3 ブロックにはまったく使用されていない。また 17 県の使用量をみると 20% を越えるのが、4 県にすぎない。一般に全国共通語と理解されている ODOROKU は、分布領域および使用量

によって支持されていないことがわかる。77図で ODOROKU 類の使用を持たない北陸・近畿・中国の3ブロックは、BIKKURI SURU 類を専ら用いる。この3ブロックは78図 ODOROKU＝驚くの使用比率が高い。両語形ともに全国共通語ではあるが、一方がより普段の口頭語的であるのに対し、他方は文章語的な色彩が濃い。したがって両語の共存がなされる。)

2. 78図 ODOROKU＝驚くと、79図 ODOROKU＝目覚めるを比べると、その分布領域・使用量ともに極めて大きな差が認められる。ODOROKU＝驚くが現在ばかりでなく今後においても用いられることを予測できるが、ODOROKU＝目覚めるは、将来性を期待しにくい。
3. しかし ODOROKU＝目覚めるの安定した使用状態を示すブロックがある。四国ブロックである。4県ともに ODOROKU＝驚くよりも、ODOROKU＝目覚めるの使用率が高い。4県の他には、岩手・大分の両県が同傾向を示す。
4. 77図 ODOROKU 類は散在的な分布を示すが、主として東日本にその使用傾向をみることができる。79図 ODOROKU＝目覚めるの使用率が注目されるのは西日本、殊に四国ブロックである。相補的な分布をみせるのは、同音異義の衝突を避ける心理が働くためであろう。
5. 一般に ODOROKU は BIKKURI SURU と共に、全国共通語形と理解されているが、ODOROKUは77図によると、分布領域および使用量によって支持されていない。
6. しかし78図 ODOROKU＝驚くは、47都道府県のすべてに出現し、しかもその使用比率も高い。これは ODOROKU の使用され方の二面性を示すものといえよう。質問形式の違いが77図では、日常語としての ODOROKU の使用状態の少なさを、78図では文章語的な使われ方をする ODOROKU の使用状態をみせることになったと言えよう。

ODOROKU (2)

ODOROKU (1) は、『日本言語地図』79図オドロクを“目覚める”の意味で使うかを中心資料とし、関連地図77図びっくりする(驚く)・78図オドロクを“驚く”の意味で使うかも援用し、オドロク＝目覚めるについての分析結果を記したものである。

ODOROKU (2) では、方言辞典から、オドロク＝目覚めるについてみてみることにする。

使用した方言辞典は、次のものである。

- 『全国方言辞典』東条操編 東京堂出版
- 『日本方言大辞典』徳川宗賢監修 小学館
- 『現代日本語方言大辞典』平山輝男編集代表 明治書院
- 『日本語方言辞書－昭和・平成の生活語－』藤原与一著 東京堂出版

最初に『全国方言辞典』に出現する「おどろく」をみる。

- ①睡眠中にふと目がさめる。「ひょいとオドロイたら雨はもうやんでいた」愛媛県周桑郡

②目がさめる。「今朝は十時にようやくオドロイタ」九州（筑紫方言）。青森・岩手・新潟・奈良・和歌山・島根・山口・四国・大分・対馬

『日本言語地図』79図オドロクを“目覚める”の意味で使うか の〈使う〉出現県の使用率とあわせて、上記の諸県を示すと、次の表7のようになる。

表7

	北海道	青森	岩手	群馬	東京	新潟	長野	岐阜	三重	滋賀	京都	奈良	和歌山	島根	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	長崎	大分
79図 %	1	32	63	3	4		5	2	2	4	4	13	40	12	51	49	97	55	70	92	11	10	89
①・②		○	○			○						○	○	○		○	○	○	○			○	○

この表から得られる観察結果を、箇条的に記しておく。

- 『日本言語地図』79図オドロク＝目覚めるにおいて安定した使用率を示す四国ブロックは、『全国方言辞典』においてもオドロク＝目覚める使用県である。岩手・大分の両県も同傾向を示す。
- 79図オドロク＝目覚める出現県は、22県。『全国方言辞典』での出現県は13県である。ともに出現県として対応するのは12県となる。
- この12県の分布の連続性および使用率の多寡に注目すると、西日本圏の諸県が注目される。東日本圏の散在的な分布、使用率の低さが目立つ。
- 『日本言語地図』79図オドロク＝目覚めると、『全国方言辞典』との対応において、79図10%未満の出現県は、『全国方言辞典』においておどろく＝目覚める県とはなりえていない。
- 例外的な県として注目されるのは、広島・新潟の両県である。広島県は、79図オドロク＝目覚める51%出現県であるにもかかわらず、『全国方言辞典』において出現県として記載されていない。また新潟県は、『全国方言辞典』では出現県として記載されているが、『日本言語地図』79図オドロク＝目覚めるでは、使用率は認められない。

続いて『日本方言大辞典』に出現する「おどろく」をみる。

『日本方言大辞典』には、おどろく＝目覚める出現県が16県みられる。前表に、この16県を加えて、表8として示すと、次のようになる。

表 8

	北海道	青森	岩手	山形	群馬	東京	新潟	長野	岐阜	三重	滋賀	京都	奈良	和歌山	島根	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	長崎	大分
79図 %	1	32	63		3	4		5	2	2	4	4	13	40	12	51	49	97	55	70	92	11	10	89
全国方言辞典		○	○				○						○	○	○		○	○	○	○	○		○	○
日本方言大辞典		○	○	○			○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○

この表から得られる観察結果を、箇条的に記しておく。

- 『日本言語地図』79図オドロク＝目覚めるにおいて安定した使用率を示す四国ブロックは、『全国方言辞典』においてもオドロク＝目覚める使用県であり、『日本方言大辞典』においてもオドロク＝目覚める使用県として注目される。また岩手・大分の両県も、『全国方言辞典』と同傾向を示している。
- 『日本方言大辞典』のオドロク＝目覚める出現県は、16県であり、79図オドロク＝目覚める出現県と対応する県は、14県となる。『全国方言辞典』に比して、長野・広島両県が79図との対応を持つ県として、注目される。
- この14県の分布の連続性および79図の使用率に注目すると、『全国方言辞典』と同じく西日本圏の諸県が注目される。『日本方言大辞典』において、山形・長野両県が登載県とはなるが、東日本圏の散在的な分布が目立つ。
- 『日本方言大辞典』において、登載県となった広島・長野両県は、79図オドロク＝目覚めるの使用率に大差がみられる。(広島：51%，長野：5%) また山形県は、『日本言語地図』および『全国方言辞典』に記載が認められない。新潟県も注目される。『日本方言地図』には、使用率が見られないが、『全国方言辞典』に続き、『日本方言大辞典』において出現県となっている。注目されるこれら諸県の個々の方言辞典名を記す。

広島県：広島県方言の研究 広島県師範学校郷土研究室

長野県：言語変化の類型 馬瀬良雄

山形県：山形県方言辞典 山形県方言研究会

新潟県：越後中魚沼郡方言 不如学楼主人輯

- 『日本言語地図』79図オドロク＝目覚めるにおいて、使用率は認められるが、方言辞典（全国方言辞典・日本語方言大辞典）に記載されない諸県（北海道・群馬・東京・岐阜・三重・滋賀・京都・福岡：8県）は、使用率が低い。オドロク＝目覚めるとの関係が認めにくい諸県である。

更に『現代日本語方言大辞典』に出現する「おどろく」を吟味する。『現代日本語方言大辞典』には、「おどろく」に関連する調査項目がみられる。次のものである。

I. めざめる 「鳥の鳴き声でめざめた」

II. おきる ①起床「冬は朝早くおきるのが辛い」②目を覚ます「赤ん坊がおきる」

III. おどろく 「地震でおどろく」

I. めざめる II. おきる の「おどろく」を、みることにしたい。

I. めざめる

◦青森市 オンドガル ナンボ エノガシテモ オンドガネァジャ（いくら揺すっても起きないよ） ワラシ オンドガルハンデ サシナグシテ（子供が目を覚ますから、うるさくするな）
〔弘前市メ サマシ、メサメル 八戸市メンザメル、メァ サメル〕

◦十津川村 オドロク オドロキシメル（目覚め始める） ヨナカニ イッカイシカ オドロカン（夜中に一回しか目が覚めない） チビガ オドロク（子供が目を覚ます） キューニ オンドロイテヨー（急に目が覚めてねえ）〔大和郡山市メー サメル：一語で表すことはできない。トリノコエデ メー サメル、アカンボ メー サマッショッタ〕

◦広島市 オドロク トリノ コエデ オドレータ（鳥の声で目が覚めた）〔油木町 アカチャング オキタ、アサ ハヨー オキタ〕

◦松山市 オドロク ヨル オンドロイテ コマル（夜目が覚めて困る）昔、上流階級の人たちはオヒナリタ（目が覚めた）と言っていた。

◦大洲市 オドロク 〔メガサメル〕

◦野津町 オドロク アンマリ サワグトアカゴイ オドロク（あんまり騒ぐと赤ん坊が目を覚ます）

II. おきる

◦青森市 オギル 起床。目を覚ますの意味では、オンドガル（目覚める）を用いる。

◦弘前市 オギル ①起床する②目を覚ます オンドガル 目を覚ます 〔八戸市オギル①起床する②目を覚ます〕

◦秋山 オチロ 起床する。

目を覚ますの意では、ネガッコガ オドケタド（赤ん坊が目を覚ましたぞ）のように言う。

〔長野市オキル①起床する②目を覚ます〕

◦十津川村 オキル ①ネヤ（寝床）から出てくること。起床 ②目を覚ます。この場合は、オンドロクを用いる。〔大和郡山市オキル①起床する②目を覚ます〕

◦松山市 オキル ①起床する ②目を覚ます ③起き上がる

オドロク 目を覚ます。古い語形。

◦大洲市 オキル 起床する

オドロク 目を覚ます。ヤヤガ オドロイタ（赤ん坊が目を覚ました）

◦野津町 オクル 一般にオクル。「目を覚ます」ことをオドロクとすることがある。

以上が『現代日本語方言大辞典』にみられる「おどろく＝目覚める」である。県別表（表9）によって、まとめておきたい。「おどろく＝目覚める」意を持つのは、Ⅰめざめる：5県、Ⅱおきる②目を覚ます：5県である。出現県の少なさが注目される。

表9

現代日本語方言大辞典	
Ⅰ めざめる＝オドロク	Ⅱ おきる ②目を覚ます＝オドロク
青森県：青森市 奈良県：十津川村 広島県：広島市 愛媛県：松山市，大洲市 大分県：野津町	青森県：青森市，弘前市 長野県：秋山 奈良県：十津川村 愛媛県：松山市，大洲市 大分県：野津町

言語的特徴の濃いこれらの諸県（地点）において、目覚める＝オドロク，起床する＝オキルの対立が鮮明に意識されていることが注目される。

これまでみてきた言語地図（日本語地図），方言辞典（全国方言辞典・日本方言大辞典・現代日本語方言大辞典）の情報を，まとめて示しておく。（表10）青森・奈良・愛媛・大分の4県は，すべての資料に登載され，オドロク＝目覚める出現県といえる。

表10

オドロク＝目覚める	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	山梨	長野	静岡	愛知	岐阜	富山	石川	福井	三重
79図オドロク＝目覚める %	1	32	63							3			4				5			2				2
全国方言辞典		○	○												○									
日本方言大辞典		○	○			○									○		○							
現代日本語方言大辞典Ⅰ		○																						
Ⅱ②		○															○							
オドロク＝目覚める	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	合計
79図オドロク＝目覚める %	4	4			13	40		12		51	49	97	55	70	92	11		10		89				22
全国方言辞典					○	○		○			○	○	○	○	○			○		○				13
日本方言大辞典					○	○		○		○	○	○	○	○	○			○		○				16
現代日本語方言大辞典Ⅰ					○					○				○						○				5
Ⅱ②					○									○						○				5

さいごに『日本語方言辞書－昭和・平成の生活語』をみておくことにする。

この『日本語方言辞書－昭和・平成の生活語』(1996年)には、オドロク＝目覚めるの記載がみられない。みられるのは、オゾム・オズムである。

○オゾム 目をさます。福岡県筑後南部ジーツ シトラニャ ヤヤノ オゾム バイ。(静かにしていないと、あかんぼうが目をさますよ。中女→子小女)

○オズム 目がさめる。熊本県阿蘇山南麓オズムト マタ 酒を飲む。(目がさめると、また酒を飲む。中男→藤原) 宮崎県中部東コンコワ チット オラプト オズム トジョイ(この子はすこし叫ぶと、目をさますんだよ。老女→小男) 県中部西奥には、オズムがあつて、これがオゾムともある。オゾンドは「目がさめた」である。

これらのオゾムは、『物類称呼』1775 目のさむるといふ事を薩摩及肥前にて をぞむと云。

『筑紫方言』1830頃 目のさめたと云事を おぞんだ 又おどろいたとも。につながるものである。また『日葡辞典』(1603・04)にもVozomuがみられる。

Vozomi, u, ôda. 眠りからめさめる。また上(Cami)ではぞつとするとか、びっくり仰天するとかの意。

Nevozomi, u, ôda (寝おぞみ, む, うだ) 眠りからさめる。下(X.)の語。

Vozomi, Nevozomi の記述から, Ximo=九州方言に 注目したい。

『現代日本語方言大辞典』(1993・94)にも、九州地域の「オゾム＝目覚める」がみられる。

○福岡市 オゾム ドスーント ユー オトデ ヨナカイオゾーダ(ドスーンという音で夜中に目が覚めた)

久留米市・山門郡・筑後方面ではオズム。

○鏡町(熊本県) オゾム サワグト コドモノ オゾムバイ(騒ぐと子供が目を覚ますよ)

○宮崎市 オゾム アンマリオゴルカリ オズダガ(あんまり騒ぐから目を覚ましたよ)

○上甕村(鹿児島県) オズム(目覚める)という動詞があるが、活用は劣勢。

○本部町(沖縄県) ウジュムン ウジュミーギセン(目覚めそうである)睡眠の途中でちょっと目覚めることに用いる。ヒティミティガタウジュムン(朝方ちょっと目覚める)

『日葡辞書』(1603・04)には、Vodoroqu=②眠りから目ざめる がみられる。この意の「おどろく」は、平安中期以降次第に用いられなくなるが、古典平家・天草版平家にはみることができる。岩波書店・新潮社の『平家物語』の「おどろく」には、注記(目覚める)が添えられている。一方言語地図(日本言語地図)・方言辞典(全国方言辞典・日本方言辞典・現代日本語方言大辞典)には、使用領域を狭めながらもオドロク＝目覚めるがみられる。しかし『日本語方言辞書－昭和・平成の生活語』には、オドロク＝目覚めるは、みられない。この『日本語方言辞書－昭和・平成の生活語』(1996年)にみられるのは、オゾム＝目覚めるである。

生理的覚醒語としての一般性を持つ Vodoroku=②眠りから目ざめるの退潮に比して、地域語（九州一帯）としての色彩の濃い オゾム=目覚める は、日葡辞書（1603・04）・物類称呼（1775）・筑紫方言（1830頃）そのままに、領域・語義ともに受け継がれている。

Vodoroku=②眠りから目ざめる を通して、「古語が方言として残存する」様相・退潮をみると同時に、オゾム=目覚めるの地域語としての力強さをみたことになる。

参考として『日本言語地図』77図びっくりする（驚く）・78図オドロクを“驚く”の意味で使うかの整理結果一覧表（表11・表12）と、両図のブロック別による相関係数表（表13・表14）をのせておく。

表11

77 びっくりする (驚く)	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	山梨	長野	静岡	愛知	岐阜	富山	石川	福井	三重
BIKKURI SURU 類	24	18	2.5	13	1	3.5	0.5	4.5	4	2.5	2.6	3.5	12	6.5	0.8	13	13.3	16	12	24.5	13	19.5	15.5	25
TAMAGERU 類	1	1	18.5	6	0.5	12.5	33	21.5	15	13	13.8	13.5		0.5	38.9		6.5	3						
ODOROKU 類	4	0.5					1	1	3	0.5	1.6	1	1	1	2		23.2	7.5	6.5					
OBOOKERU 類						10							1		1.3			2		1.5	3.5	3.5	1.5	
DOOTEN SURU 類	3	15.5	20	15	37.5	4	1.5																	
OKURERU ~													3	2				0.5	0.5		3.5	1		
無回答																								

77 びっくりする (驚く)	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
BIKKURI SURU 類	13	14	6	25.5	13	18	5	2	24.5	3.5		7	12	3.5	12.5	2	9	11	1		0.5	5.5	
TAMAGERU 類								9		25	31			16	7.5	26	4	27.5	23	34	27.5	35.5	1.5
ODOROKU 類														3.5								5	28
OBOOKERU 類		1		0.5			9	17	5.5	3.5		10	3									4	4.5
DOOTEN SURU 類																							
OKURERU ~															3			0.5					1
無回答																		2					

表12

78	オドロクを“驚く” の意味で使うか	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	山梨	長野	静岡	愛知	岐阜	富山	石川	福井	三重
	使　　う	41	11	7	13	20	4	8	9	15	20	12	24	12	10	16	13	20	20	13	21	8	10	13	23
	使わない	1	17	46	10	6	15	23	14	5	3	1	2			23	3	13	5	8	7	4	8	1	2

78	オドロクを“驚く” の意味で使うか	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
	使　　う	10	14	8	27	9	8	10	16	9	16	19	8	1	9	18	8	3	23	5	3	10	24	30
	使わない		3	1	11	3	10		6	13	10		2	6	10	5	14	3		15	16	10	24	12

表13

77図	北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州	沖縄
北海道・東北		.615	.402	.414	.608	.548	-.124
関東・甲信越			.429	.407	.875	.931	-.118
東海・北陸				.983	.590	.114	-.074
近　　畿					.551	.109	-.069
中国・四国						.780	-.053
九　　州							-.074
沖　　縄							

表14

78図	北海道	東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
北海道		-1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	-1.000	1.000
東北			-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	1.000	-1.000
関東				1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	-1.000	1.000
甲信越					1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	-1.000	1.000
東海						1.000	1.000	1.000	1.000	-1.000	1.000
北陸							1.000	1.000	1.000	-1.000	1.000
近　　畿								1.000	1.000	-1.000	1.000
中国									1.000	-1.000	1.000
四　　国										-1.000	1.000
九　　州											-1.000
沖　　縄											

参考図書

- 『日葡辞書』（邦訳日葡辞書 土井忠生・森田武・長南実編訳 岩波書店）
『天草版平家物語対照本文及び総索引』 江口正弘著 明治書院
『平家物語』 新潮日本古典集成 水原一校注 新潮社
『平家物語』 新日本古典文学大系 梶原正昭・山下宏明校注 岩波書店
『平家物語』 日本古典文学大系 高木市之助・小澤正夫・渥美かをる・金田一春彦校注 岩波書店
『全国方言辞典』 東条操編 東京堂出版
『日本方言大辞典』 徳川宗賢監修 小学館
『現代日本語方言大辞典』 平山輝男編集代表 明治書院
『日本語方言辞書－昭和・平成の生活語－』 藤原与一著 東京堂出版
『日本言語地図』 国立国語研究所 大蔵省印刷局
『日本国語大辞典』 小学館

ODOROKU と相関係数 市井外喜子（『日本文学研究』 第22号 1983）

（2005年9月24日受理）